

その後いかがお過ごしですか？ プロジェクト



## green maman



対応してくれた人の名前：宇角佳笑、小松昌世、小黑敦子  
 調査員：蜂須賀功、井上崇也  
 レポート作成者：井上崇也  
 取材日：2016年12月6日(火)  
 取材場所：守綱寺

## 活動内容(「山村再生担い手づくり事例集」より)

green mamanは、朝市を毎月第4火曜日、豊田市寺部町の守綱寺で行っている。また、スーパーやまのぶ梅坪店「ママンズ キッチン ことり」では、惣菜や弁当、おやつなどを販売し、「green mamanのお気に入り」では、フェアトレード商品や朝市での商品を販売している。2014年1月からは、毎月第2木曜日に、タキソウ家具本店での朝市も開催している。

子育て中の主婦、宇角さん、中根さん、小松さんおよび小黑さんの4人が、田中優さん(反原発や平和活動を続ける文筆家)の講演を聞き、「私たちにも何かできるのではないか」という思いから、green mamanは始まった。「地域で循環」をもとに、エネルギー、人、お金、モノが地域でうまく回るような仕組み、持続可能な社会をつくろうと、まず、農業すなわち「食」からスタートする。

朝市を企画運営し、地域で野菜を作っている人(農業生産者)に出店してもらい、地域の人に野菜を売ろうとしたが、当時豊田市内では産地直売が中学校区単位で進んでおり、なかなかgreen mamanの野菜は売れなかった。そこで、ただ売るのでなく、商品の情報(作っている場所、人)や料理方法、「買い物は投票」という考えなどを併せて紹介するうちに、徐々に浸透していき、現在では野菜、米、パン、ジャムなどの食料品に加え、雑貨なども朝市で出店されている。

## 前回の取材後、どのような変化がありましたか？

毎月第2木曜日に開催していたタキソウ朝市を2年ほどやって卒業

→単純に売買だけではない目的でやっていたが、そのあたりのお互いの思惑が違っていた。

・猿投地区で自然栽培にこだわった米づくりを行っている。「みどりの里」の方の指導やその土地の方々からの受け入れがあったからこそ出来た。

→やってわかる1から作る大変さ、意識の変革があった。米価格の異常な安さ、消費者目線と生産者目線の違いを思い知らされた。今では、外部の人も加わり一緒に作業している。そこから別のコミュニティが発生することを期待している。

・スーパーやまのぶにgreen mamanのコーナーを設けさせてもらっている中、スーパーやまのぶと老人福祉センターぬくもりの里が福祉事業の一環として入居者が生産している農産物の取り次ぎを行ったこともある。お互いに顔が効くgreen mamanだから出来たことだと思う。今後は、一般の人が農業を通じてお金だけじゃない価値観を持てるような農福連携が重要になってくると思う。

## 前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？ 現在の課題は何ですか？

・運営費については、大変ではなくなってきた。逆に周りが出店料が少額で、運営を心配してくる。スーパーやまのぶの相談役が協力を申し出てください、やまのぶ2店舗にgreen mamanコーナーを設ける事で支援を頂いている。

・助成金を初年度申請し、大変助かったが、次年度からは申請の労力を考えて、申請していない。

・朝市に参加してくれる人に偏りが出てきている。来ていない人への伝え方も考えていかなければならない。

・フェアトレード商品の売り買いの難しさ

・フェイスブックのページ作成

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイデアがありましたら教えてください

・誰かと誰かをつなげ、コーディネートしてくれる存在、特にそれを仕事でやってくれる人が必要と感じる。豊田市で言えば、おいでんさんそんセンター。行政はイベントをやりがちだが、やっている側としては、単発では効果がわかりづらい。細くでも長く続けて付き合っていくことに自らの活動が役立っていることを実感できる場合が多い。

写真



朝市の様子(守綱寺にて)



田んぼの除草作業